

## 令和4年度 第3回三田市環境審議会 議事概要

会議の名称	令和4年度 第3回三田市環境審議会		
会議の日時	令和4年11月28日(月) 17:30~19:00		
会議の場所	三田市役所 本庁舎 3階 302A 会議室		
出席した委員の氏名	佐藤 裕司委員、石田 弘明委員、佐山 浩委員、阪本 浩司委員、森 里美委員、山田 敏雄委員、岸本 和史委員、秦 亮人委員		
出席した庶務職員の職及び氏名	事務局	まちの再生部	久高部長
		ゼロカーボンシティ推進室	辻下室長
		環境創造課	赤井課長、辰巳係長、寺嶋主任
傍聴者の人数	1名		
取材者の人数	0名		
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 挨拶</li> <li>3. 議 事               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 三田市環境基本計画の改定について                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状と市民アンケートからみる課題【資料1】</li> <li>・次の5年の取り組み【資料2】</li> </ul> </li> <li>② 「さんだゼロカーボンシティ推進計画(案)」の報告について</li> <li>③ 三田市環境基本計画の改定について</li> </ol> </li> <li>4. その他</li> <li>5. 閉 会</li> </ol>		
会議の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三田市環境基本計画(素案)について、説明を行い、それに対する質疑を行った。</li> <li>・「さんだゼロカーボンシティ推進計画(案)」の報告について説明を行い、それに対する質疑を行った。</li> </ul>		
公開・非公開の区分	公開		
使用した資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 次第</li> <li>▶ 【資料1】現状と市民アンケートからみる課題</li> <li>▶ 【資料2】第3章 次の5年の取り組み</li> <li>▶ さんだゼロカーボンシティ推進計画(案)</li> </ul>		
連絡先			

## ■議事：

三田市環境審議会規則第2条第2項の規定により、佐藤会長が進行。

### ① さんだゼロカーボンシティ推進計画(案)について

(事務局) 「さんだゼロカーボンシティ推進計画(案)」を用いて市民アンケート結果の説明

(委員) 森林吸収量は0.3%確保すると記載がある。一方で、三田市における主な再生可能エネルギーは太陽光発電が中心とも言われているが、太陽光パネルの増設のために山を切り拓くと森林が減ってしまう。この辺りの問題については、どのように対応していくのか。

(事務局) CO<sub>2</sub>吸収源である森林を守るために、森林は里山として活用を行うことで適正管理し、太陽光等による開発は行わない想定である。

(会長) 吸収量約2,500t-CO<sub>2</sub>というのは、スギの本数または森林面積何haか、想定しているか。

(事務局) 面積等では検討せず、今ある三田の里山、森林を利活用して、適切に管理して吸収源としていく方針である。

### ② 三田市環境基本計画の改定について

(事務局) 【資料1】現状と市民アンケートからみる課題、【資料2】第3章 次の5年の取り組みの説明を行った。

#### 「(I)参加・協働」の分野について

(委員) 基本理念について情勢を鑑みて修正されているが、これにさらにSDGsに関する内容を盛り込むべきだと思う。

(事務局) 検討し、改めて示す。

(委員) 「参加・協働」についてだが、市民対象の成果指標が多く、事業者向けのものがないため、追加すべきだ。

(事務局) 事業者と連携体制はあるものの、事業者が行う環境活動について数値の把握が難しいため指標には示していない。

(委員) 企業の環境活動を支援する会や、企業と協働した活動等の数値を指標にできなにか。

(事務局) 協働事業については実績があるため、指標に加えられるか検討する。

- (委員) 環境学習については、成果指標に「プログラム数」と記載されているが、プログラムに参加した人数の方が実績として相応しいのではないかと。  
また、三田市は里山の利活用に力をいれていると思うので、市民が里山を利用したかどうか分かる指標を取り入れてはどうか。例えば、里山の入り口に容器を用意して利用した際に石をいれてもらうなど。
- (事務局) プログラムの受講者数については、コロナ対策としてプログラムごとに定員を設けており、しばらくの間は受講者を大きく増加させられないため、「プログラム数」を指標としている。しかし、受講者数自体の把握は今後も行っていく予定である。また、里山を利用した市民の数については、里山の入り口にカウンターが置かれているため、これを活用できないか検討する。
- (会長) 協働の施策において示す「地域」とは、「〇〇地区」を指示しているのか。
- (事務局) 三田地区などの意味もあるが、武庫川流域広域で連携も行っているため、より広い地域を指す場合もある。
- (委員) 「里山ボランティアの延べ活動日数」という指標があるが、他のボランティアについては指標にできないのか。
- (事務局) 市で主に把握可能な指標のため、里山ボランティアに限定している。ただ、数値として把握できない活動についても記載等を行う予定である。

## 「(Ⅱ)自然共生社会」の分野について

- (委員) 「自然公園や自然環境保全地域に指定されている優れた自然環境を保全します」と記載があるが、三田市に自然公園法に定められている公園はあるのか。また、条例に基づく保全地域もあるのか。特になければ、「優れた自然環境を保全します」の記載が良いと思う。  
また、「30 by 30 の達成」に向けては民間への働きかけも重要となってくるため、行政欄にも「OECEM 登録」の内容を記載すべきである。
- (事務局) 検討し、改めて示す。
- (会長) 「生物多様性認証制度」は兵庫県にもあるのか。  
また、14 ページに「地域性系統による緑化」と記載されているが、在来植物という表現ではないのか。
- (事務局) 兵庫県にはまだないが、三田市の生物多様性戦略の検討内容に入っている。生物多様性戦略での最終的な検討内容を鑑みて調整する。

(事務局) 「地域性系統」の表現で合っている。三田市ではヤマザクラなどを遺伝子のレベルで確認して、三田市に元からある遺伝子の植物での緑化を目標としている。

### 「(Ⅲ)循環型社会」の分野について

(会 長) 剪定枝の資源リサイクルについて記載されているが、実際やられているのもっとアピールしても良いと思う。

(事務局) 緑のリサイクル事業として行っている。すべての剪定枝で行っている訳ではなく、より無駄なく行っていくために具体的に記載している。

(委 員) 「ごみの再資源化率」→「ごみの再生利用率」に変更されているが、なぜなのか。「1人1日平均使用水量」の目標が達成されていないにも関わらず、設定目標値が変更されていないが、どうしてか。

(事務局) ごみの再資源化率については、家庭または事業所で独自に再資源化した推計量を含めていたが、ごみの再生利用率には実測値のみで推計量は含まないこととした。これは「一般廃棄物処理基本計画」の内容に合わせている。「1人1日平均使用水量」については、水資源の確保に関する指標として設定しており、目標値は水道における計画に合わせて設定した。

(委 員) 水資源の確保に関して施策もあれば良いと思う。

### 「(Ⅳ)脱炭素型社会(ゼロカーボンシティ)」の分野について

(会 長) 「地域と共生する再生可能エネルギー」とは、どんなイメージなのか。

(事務局) 地域内の生み出すエネルギーを循環させるという意味で、例えばごみ処理時に発生したエネルギーで発電するなど、地域内のエネルギーを無駄なく使うというイメージから来ている。

(委 員) 専門用語に注釈をつけ、解説を行うべきだ。

(事務局) 最終点検時に注釈、用語説明を添付予定である。

(委 員) 太陽光発電の導入量については数値目標があるが、吸収源である森林については面積等の数値目標がないのはなぜか。  
また、事業者への普及啓発は進展しているのか。クールチョイスネットワーク会議に参加している企業はあまり増えていないように思う。

(事務局) 事業者の環境活動については各事業者の事情によって違うが、再エネ電気の調達など環境配慮が企業のアピールポイントにもなっているため、今後も市として情報提供をしていく方針である。クールチョイスネットワーク会議については昨年12月より募集をはじめ、情報提供を行っているため増えていくと思われる。保全する森林の面積については数値設定できるのか検討し、改めて示す。

(委員) 三田市独自で森林吸収量を把握できず、国との森林面積より按分している。このため、国全体の森林面積が減れば三田市の按分結果でも減ることになるが、これは正確な値ではない。よって指標にすることが難しい。今後数値目標をどうするかは分からないが、三田市として森林を守っていくという方針でしか、示せないのが現状のようだ。

(事務局) 委員のいうとおりで、里山として利活用して守っていくという方向性である。

#### 「(V)安心・安全・快適」の分野について

(会長) TNR活動について、正式名称や説明した方が良い。

(事務局) 点検し、用語の説明を添付する。

#### 「重点プロジェクト」について

(委員) 「ナッジ理論を生かした…」とあるが、どのように行うのか。  
「公害等に関する苦情件数」に野焼きも含まれているのか。

(事務局) してほしいことを依頼するのではなく、自然と対象者が行うようにする工夫である。例えば、ごみ箱にクイズを貼ってごみのポイ捨てを防ぐといったことだ。公害等の苦情については、野焼きも含まれている。

(会長) 重点プロジェクトの各々の名称が地味に思う。市民にもアピールするために、例えば「ローカルSDGs推計プロジェクト」など、もっとインパクトに残る名称の方が良いと思うが、どうだろうか。また、掲げている目標の宣言を強く表現した方が良いと感じる。  
全プロジェクトの成果指標について、「環境学習プログラム数」を入れるべきである。

(事務局) 検討し、改めて示す。

(委員) 計画の前段に、市民や事業者にも積極的に取り組んでもらえるように、促す文章を書くべきだと感じる。

(事務局) 検討し、改めて示す。

#### ④その他

(事務局) 環境審議会の進捗と今後の予定について説明

(事務局) 環境基本計画の改定に関する最終審議を次回行う。日時は12月13日(火)17:30より本日と同じ会場で行うことを想定している。

(会長) 了承した。

#### ■閉会

議事録については、後日、配布する。